

## 春日山原始林保全計画検討委員会の設置について

春日山原始林保全計画検討委員会は、「奈良公園基本戦略」に基づき、春日山原始林とシカの共生を踏まえた『春日山原始林保全計画』の策定を目的に設置する。

### 1. 奈良公園基本戦略（平成 24 年 2 月策定）

※奈良公園地区整備検討委員会（平成 23 年 8 月設置）  
 <設置目的>基本戦略等の策定、維持・利活用の方策検討等

#### 「奈良公園の価値」

- 奈良公園は国内外から年間 1000 万人以上の来訪者が訪れる日本を代表する観光地であり、市街地に隣接した公園である。
- 奈良公園には世界遺産である「古都奈良の文化財」をはじめとして、数多くの資源が存在している。
- 奈良公園の価値とは、奈良公園の自然資源、歴史・文化資源、公園資源、及び各資源が融合した独特の風致景観である。

#### 奈良公園の「維持・管理」に関する課題

- ナンキンハゼ等の外来種の侵入による春日山原始林の荒廃
- 「奈良のシカ」による交通事故の増加や農作物の被害
- 奈良公園周辺における樹木の生長による眺望の阻害

#### 「奈良公園基本戦略の基本方針」

県がトータルマネジメントを行い、奈良公園の価値を積極的に維持し、さらなる魅力の向上や魅力の創出に努める。

#### 「基本方針実現に向けた3つの柱」

維持：  
①価値を守る

利活用：  
②魅力を活かす

取組体制：  
③県が主体的に

#### 基本方針の実現に向けた施策・事業【自然資源の保存】

##### ◆ 天然記念物の維持・管理

##### 1. 春日山原始林の再生

春日山原始林の荒廃から守り再生するため、春日山原始林保全計画を策定し、特別天然記念物である春日山原始林の再生に努める。

##### 2. 奈良のシカの適切な保護・育成

奈良公園に生息する天然記念物の「奈良のシカ」を適切に保護・育成する。

##### ◆ 植生の維持・管理

##### 3. 奈良公園の植栽計画の策定

樹木の生長による眺望の阻害等に対応するため、奈良公園植栽計画を策定し、奈良公園周辺の植生を適切に維持・管理する。

#### ■春日山原始林保全計画検討委員会

春日山原始林とシカとの共生、シカと人との共生を踏まえた春日山原始林保全計画を策定する。

#### ○（仮称）花山・芳山地区保全・利活用部会

人工林の適正な管理・育成を図るほか、その利活用も行うことにより、人工林の保全、ひいては原始林の保全に資する。

#### ■奈良公園植栽計画検討委員会

（平成 24 年  
11 月設置）

#### ■奈良のシカ保護管理計画検討委員会（仮称）

（平成 25 年度  
設置予定）

## 2. 春日山原始林保全事業の概要

### (1) 事業の目的と背景

- 春日山原始林は、都市公園である奈良公園の一部であるとともに、原生的状態を維持している貴重な原始林として特別天然記念物に指定され、また世界遺産「古都奈良の文化財」の一構成要素にもなっているという特色を有する。
- 春日山原始林は①植物の種類が多様、②一団のまとまった規模がある、③在来の植生を構成する樹木等が自然分布状態で残存していること、④近代においても統一的な管理がなされてきたこと等により、日本有数の価値の高い森林であるといわれている。
- しかし、近年原始林の荒廃が研究者から指摘されるようになっており、県が平成23年度に行った予備調査（現地調査）、文献調査やヒアリングからも、シカの採食による樹木の生長阻害や気候の温暖化が主な要因となって、将来の原始林構成樹種が変化していく恐れのあることが明らかになった。他方で、「奈良のシカ」もまた天然記念物に指定されていることから、その対策には特段の配慮が必要である。更に、近年全国的に問題となっているナラ枯れ被害も原始林近くにまで及んできている。
- これらの状況を考慮して、春日山原始林の荒廃の現状を把握・分析し、保全手法を検討することを目的とし、春日山原始林とシカの共生、人とシカの共生を踏まえた春日山原始林保全計画を策定するものである。

### (2) 事業の内容

- 原始林保全計画の内容
  - ・ 既往調査の整理…平成23年度調査の再整理・近畿圏における類似事例の収集
  - ・ 現地調査…原始林大径木調査（継続）、後継樹更新状況把握調査
  - ・ 原生林荒廃状況のまとめ
  - ・ 保全計画（管理計画）の検討
  - ・ 実証実験計画の検討
  - ・ 執行体制の検討
  - ・ 周辺樹林についての検討 等

### (3) 計画策定後に予定している事業

- 環境整備工事 ※詳細は、今後の検討内容により決定（例：植生保護柵設置工）
- モニタリング調査
- 原始林の病虫害対策（ナラ枯れ等）

### 3. 春日山原始林保全計画検討委員会の獲得目標について

本検討委員会では、春日山原始林保全計画の策定に向けて、以下の4点を獲得目標に検討を進める。

#### ①春日山原始林の特質と課題を整理する。

---

春日山原始林は、生物多様性に富みかつ原生的な姿をとどめる森林として希少性が高い、国指定天然記念物「奈良のシカ」とともに日本人の伝統的な自然観と深く結びついている、「大和の青垣」として市街地を取り囲む重要な景観要素であるなど、多様な価値を有している。本検討委員会では、春日山原始林の価値として広く内外に認められている特質とその関係性を整理する。

その一方で、春日山原始林の基盤である照葉樹林の更新不良、外来樹種の拡大等の課題が散見され、現状のままでは、春日山原始林が有する多様な価値の低下・衰退につながると危惧されている。本検討委員会では、効果的かつ効率的な保全方策の検討につなげるため、春日山原始林の課題を整理する。

#### ②春日山原始林の保全に向けた長期ビジョンを検討する。

---

春日山原始林の保全に関する多様な主体が、春日山原始林のあるべき姿を共有し、継続した保全対策を展開できるよう、その方向性（長期ビジョン）を位置づける必要がある。本検討委員会では、①で整理した特質と価値を踏まえ、保全に関する基本的な考え方とその管理方針を検討するとともに、具体的な保全方策をハード・ソフト両面から検討する。

#### ③緊急を要する保全方策に関する短期的取り組みを検討する。

---

春日山原始林が有する多様な価値を維持し、持続的な森林更新を誘導するためには、シカの食害緩和や外来樹種の拡大抑制など、保全方策のなかでも緊急を要するものがある。本検討委員会では、春日山原始林の現状と課題、植生調査の結果等を踏まえ、緊急を要する保全方策を整理し、その実施箇所と手法を短期的な取り組みとして検討する。

#### ④着実に保全方策を展開するため、その執行体制と多様な主体の参画を促す方策を検討する。

---

着実に保全方策を展開するためには、財源確保、日常的な森林管理の実施、関係部局との連携等、保全計画の執行体制を構築する必要がある。本検討委員会では、春日山原始林の管理者である県が主体的に取り組む執行体制を具体的に検討する。

また、春日山原始林の保全方策を継続して展開するためにも、森林管理への県民の参画を促し、執行体制と両輪で取り組みを進める必要がある。本検討委員会では、新たな担い手の育成を推進するなど、普及啓発を通じて、多様な主体の参画を推進するための方策を検討する。

#### 4. 今後のスケジュールについて

春日山原始林保全計画検討委員会（計3回）及び花山・芳山地区保全・利活用部会（計2回）の議題、開催時期は、以下のとおり想定している。

##### （1）春日山原始林保全計画検討委員会（3回）

回	開催時期	議題
1	2月8日	<p>■午前10時～午前12時：春日山原始林の現地視察</p> <p>■午後1時～午後3時：検討委員会</p> <p>①春日山原始林の現況と課題整理について</p> <p>②春日山原始林の保全手法の検討について</p>
2	4月	<p>①平成24年度調査成果の報告</p> <p>②春日山原始林保全計画案（案）の提示</p> <p>③春日山原始林保全計画の検証のための実証実験計画（案）の提示</p> <p>④春日山原始林のバッファゾーン（花山・芳山地区 他）のあり方・保全手法等の検討</p>
3	6月	<p>①春日山原始林保全計画の策定</p> <p>②春日山原始林保全計画の検証のための実証実験計画の策定</p>

##### （2）（仮称）花山・芳山地区保全・利活用部会（2回）

回	開催時期	議題
1	3月	<p>①人工林の視察</p> <p>②桧皮採取試行実験方法の提示</p> <p>③花山・芳山地区の人工林の適正な管理・育成計画（案）の提示</p> <p>④花山・芳山地区の人工林利活用計画（案）の提示</p>
—	3月末	桧皮採取試行実験の実施
2	5月	<p>①桧皮採取試行実験の結果報告</p> <p>②花山・芳山地区の人工林の適正な管理・育成計画の策定</p> <p>③花山・芳山地区の人工林利活用計画の策定</p>

平成24年度									平成25年度					
2月			3月			4月			5月			6月		
10	20	30	10	20	30	10	20	31	10	20	30	10	20	30
委員会 ①							委員会 ②						委員会 ③	
				部会 ①						部会 ②				
					桧皮採取 実証実験									